

第5章 協働プロジェクト

1 協働プロジェクトの考え方

市民、事業者、市の協働の必要性

地方分権の進展や少子高齢化など、社会環境が急激に変化している中、住民ニーズも様々な分野に広がり、地域課題も複雑多様化しています。

このようななか、きめ細かな住民サービスを提供し続けるためには、今まで以上に住民の皆さんの持つ能力や地域が持っている活力を、市と共にまちづくりに生かしていただく市民協働の取組の強化が必要であるとともに、次世代の環境づくり活動の担い手の発掘・育成が急務となっています。

協働プロジェクトの目的・目標

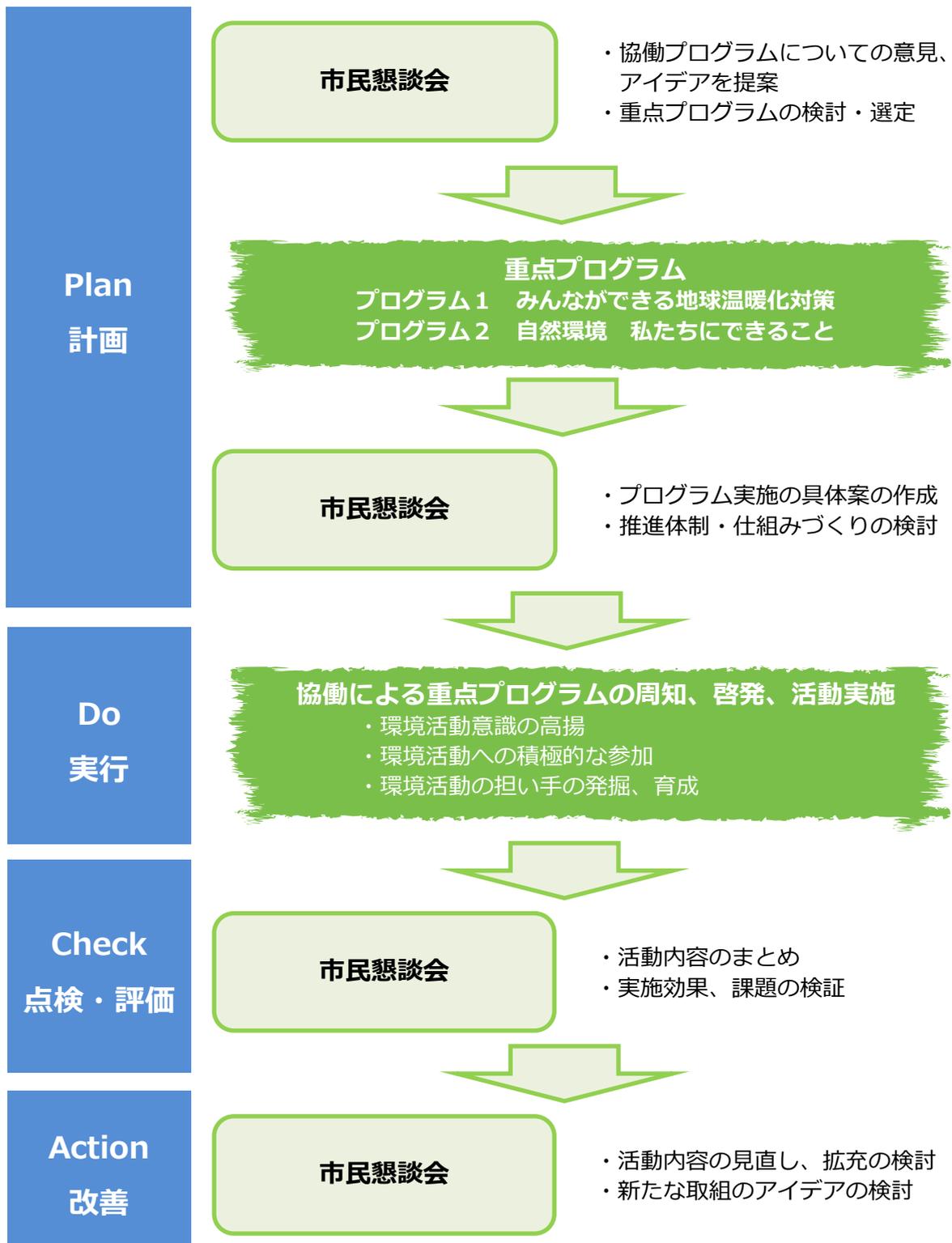
協働プロジェクトとは、本市に関わる全ての人々が環境づくり活動の担い手となるべく、市民、事業者及び市の協働により展開する事業です。

協働プロジェクトの立案にあたっては、市民や事業者の皆様に参加を頂いた市民懇談会にてワークショップ形式による討議を行い、持続可能な社会を実現するための課題の洗い出し、将来にわたって事業を継続していくための仕組みや、本市の環境づくりに関する活動の輪を広げていくための仕組みなどについて意見・アイデアを出し合いました。

頂いた多種多様なご意見・アイデアのうち、特に本市の環境づくりにおいて重要であると考えられる取組を重点プログラムと位置づけ、本計画期間の早期において優先的な推進を図ります。

本計画では、重点プログラムの実施イメージを示していますが、引き続き、市民懇談会による具体的な取組案の作成や推進体制等の仕組みづくりを行い、周知・啓発を経て実際の活動に繋がります。また、PDCA サイクルにより活動内容の見直しと更なる拡充を繰り返し、将来は持続可能な取組として市民・事業者・市が協働でプログラムに活動することを目指します。

協働プロジェクトの流れ



～将来のイメージ～

市民・事業者・市の協働による持続可能な取組が実施されている

■コラム 犬山市環境基本計画 市民懇談会

環境基本計画を策定するにあたり平成31年3月を皮切りに計4回開催し、延べ113名の市民や事業者の皆様にご参加いただきました。

市民懇談会では「SDGs」に関する講演のほか、「犬山市の環境について考えよう 豊かな自然を未来へつなぐために私たちができること」と題したワークショップを行い、市民・事業者・市が協働で取組むプロジェクトを作るため、意見やアイデアを話し合いました。また、そこで出た意見について討議を行い、市民や事業者が取り組むべき事項を重点プログラムとしてまとめました。

今後も市民懇談会を継続的に開催し、取組を具体化し、施策化を目指します。

市民懇談会の討議の様子



<犬山市環境基本計画市民懇談会 開催実績>

第1回	平成31年 3月 2日	35名
第2回	令和元年 6月 16日	24名
第3回	令和元年 9月 29日	28名
第4回	令和元年 12月 22日	26名

市民懇談会における主な意見・アイデア

■ 自然環境に関すること

- ・犬山には他市に無いすばらしい自然資源がある事を市民が共有する。
- ・地域の自然環境の現状を把握する。
- ・犬山の自然について本格的に調査活動とデータ採集を早急に進める。
- ・イベントとして楽しめるような里山の保全や整備につながる企画を続けていく。
- ・身近な自然を子どもに遊びをとおして学習できるといい。
- ・荒れた雑木林や竹林を行政と市民が協働して、かつての里山を復活する。
- ・生物多様性を学習する体験的講座をつくる。
- ・行政と市民の協働による侵略的外来種対策を実施する。

■ 循環型社会に関すること

- ・ごみの分別方法など定期的に教育し続ける。
- ・食品ロスは個々に取り組むだけでなく、事業者と行政と消費者の連携で進める。
- ・スーパーや商店と協力し、プラ製の袋や容器をできるだけ使わないようにする。
- ・町内会毎にごみ分別コンテストをする。
- ・ごみを分別した後の最終の姿を知らせる。
- ・生ごみや間伐材を肥料として再利用できる施設や方法を検討する。

■ 生活環境に関すること

- ・災害対策に関連して太陽光など再エネ電源（蓄電池と共に）を導入する。
- ・下水道の整備を進める。
- ・市民による定期的な水質や環境等の調査活動を行う。
- ・空家対策を進める。
- ・アダプトシステムを活用する。
- ・市民の定期的な見回りによる不法投棄などの見守り活動をする。
- ・自転車優先レーンをつくる。

■ 温暖化対策に関すること

- ・省エネは、得することを見える化する。
- ・各家庭では、太陽光発電や防災用ボイラーなどの設置を促進する。
- ・コミュニティバスなど公共交通機関の利用を促進させる。
- ・省エネ機器の購入や省エネ建築に対する補助金制度を導入する。
- ・公共施設の屋根貸しをもっと推進する。
- ・市民健康館（さら・さくら）を再エネの拠点にする。
- ・メガソーラーによる乱開発を抑止する。
- ・小水力発電、木質バイオマス利用を促進する。
- ・水素社会に向けた取り組みを推進する。
- ・自動車から自転車へ移行しやすい道路環境を作る。
- ・誰でも使える貸し自転車を増やす。

■ 環境保全活動に関すること

- ・親子で参加できる環境学習講座を開催する。
- ・市民の環境リーダーを養成する。
- ・大人が環境について学ぶ場を創造する。
- ・市民と専門家が一緒に行う地域での自然観察会、生物調査を実施する
- ・学校教育では時間がとれないので、別にESDができるようにする。
- ・いろんなイベント会場で環境コーナーを設け、遊びながら学べる機会をつくる。
- ・地域コミュニティを活用する。
- ・市民グループが協力してさまざまな環境保全活動を行うための組織をつくる。
- ・小中学校への環境出前講座を実施する。
- ・地域を見直す機会（見学会等）を設ける。
- ・イベントと組み合わせをした地域クリーン活動を実施する。
- ・子どもがエコリーダーになる。
- ・エコアップ養成講座を再開する。
- ・環境教育のセンターとして、市民健康館（さら・さくら）を活用する。

※太字は、重点プログラムとして選定したアイデア・意見

2 重点プログラム

プログラム 1 みんなができる地球温暖化対策

プログラムの目的

パリ協定では、21世紀後半に温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることが求められています。温室効果ガス排出量の削減目標を達成するためには、再生可能エネルギーの活用、森林の整備など様々な取組を行うと共に、温室効果ガス削減のための活動に市民の幅広い参加を促していきます。

プログラムの内容と役割分担のイメージ

市民、事業者、市がそれぞれの責務を果たしながら、子どもから大人まで誰もが楽しく参加でき、温室効果ガス削減につながる活動の企画・立案、実施を協働で推進します。

各実施主体の具体的な取組の例

市民

個人での取り組み

- ・節電、省エネ、暮らしの工夫の実践
- ・ボランティア活動への参加

団体での取り組み

- ・再生可能エネルギーの創出
- ・森林整備活動
- ・環境イベントの開催
- ・市民へ活動内容の周知・P R

事業者

- ・市民活動への参加
- ・資金や資材などの提供
- ・広く周知、P R

市

- ・再生可能エネルギーの推進
- ・ボランティアスタッフの育成
- ・森林の保全
- ・環境イベントの開催へのフォロー
- ・市民への周知、P R
- ・市民、事業者の活動支援
- ・環境施策の展開

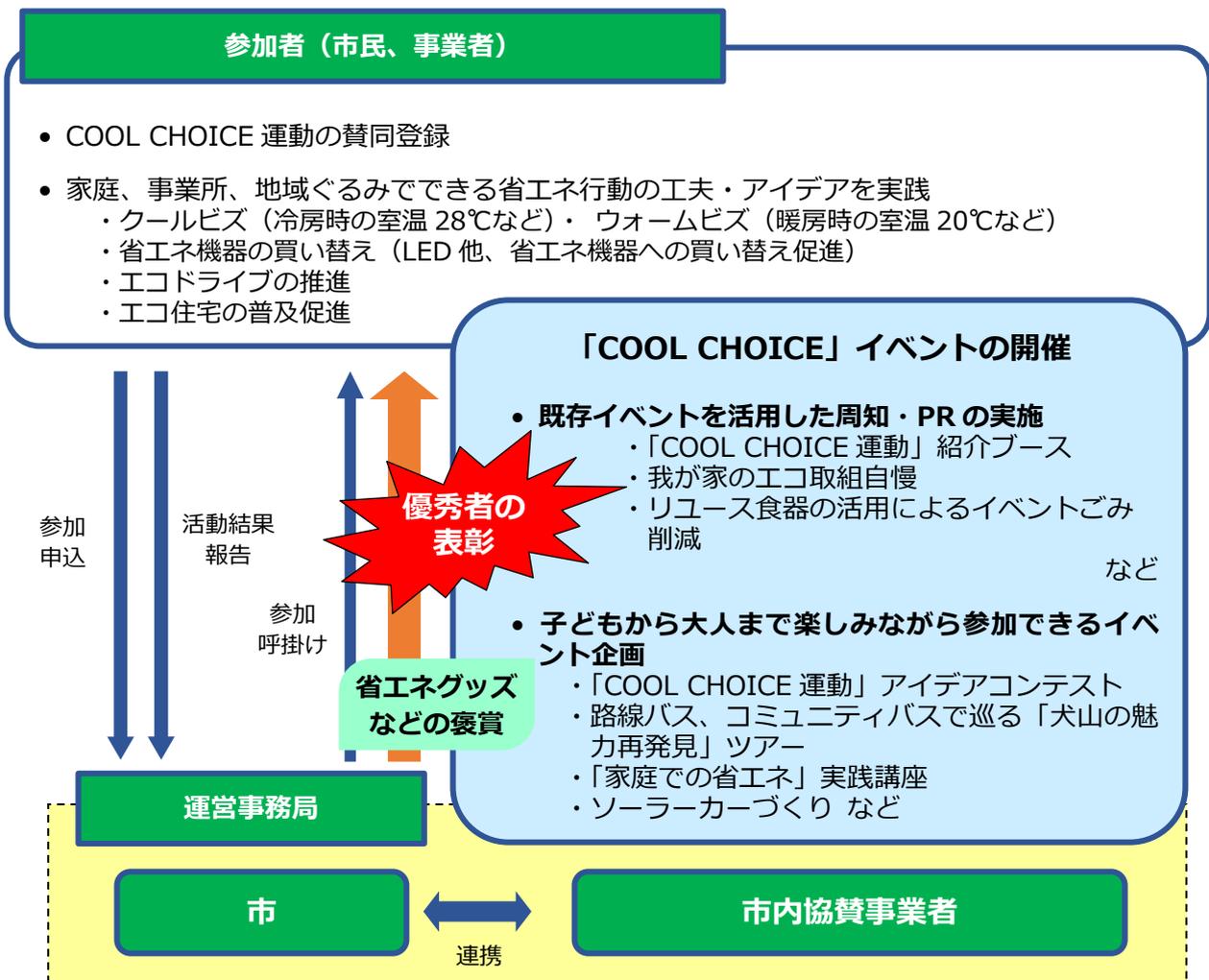
想定される成果

- 【環境面】 ・ 温室効果ガスの削減及び市民への理解が進む。
- 【経済面】 ・ 再生可能エネルギーの活用とともに、必要となる機器の購入等による消費が発生することで経済効果につながる。
・ 省エネにより電気代などが抑制されたことによる新たな消費が期待できる。
- 【社会面】 ・ 再生可能エネルギーを環境面だけでなく災害時にも利用できるようにすることで防災面でも活用が可能になる。
・ 森林保全から、森林に親しみやすい環境をつくることで健康増進につながる。

「みんなができる地球温暖化対策」今後の展開イメージ

省エネ・低炭素型の製品、サービス、行動など地球温暖化対策のあらゆる賢い選択を促す国民運動である COOL CHOICE 運動の普及に向けて、市民、事業者及び市の協働による PR イベントの開催が考えられます。

本イベントをきっかけとし、温室効果ガス削減のための活動への参加拡大が期待できます。



プログラム2 自然環境 私たちにできること

プログラムの目的

本市の自然環境の特徴は、東部丘陵をはじめとした里山が多く占めており、自然資源に恵まれていることです。里山の豊かな自然環境を将来に向けて持続的に守り育てていきます。

プログラムの内容と役割分担のイメージ

市民、事業者、市がそれぞれの責務を果たしながら、子どもから大人まで誰もが楽しく参加でき、自然環境の保全につながる活動の企画・立案、実施を協働で推進します。

各実施主体の具体的な取組の例

市民

個人での取り組み

- ・環境イベントへの参加
- ・ボランティア活動への参加
- ・犬山の自然について学ぶ

団体での取り組み

- ・自然と触れ合う環境イベントの実施
- ・外来種駆除活動
- ・自然保全活動の実施

事業者

- ・市民との繋がりをつくる
- ・自社製品を環境対策品にする
- ・イベントへの協力、物品の提供など

市

- ・環境調査の実施及び報告
- ・生物多様性の推進
- ・レジ袋削減の取組
- ・自然と触れ合う環境イベントの実施
- ・市民の自然保全活動のフォロー
- ・市民同士の連携のフォロー

想定される成果

- 【環境面】
 - ・自然へ親しむことで自然環境保護への意識が高まる。
 - ・豊かな自然を未来へ繋げることができる。
 - ・温室効果ガスの削減及び市民への理解が進む。
- 【経済面】
 - ・環境への意識の高まりから環境配慮型商品を販売、購入につながる。
- 【社会面】
 - ・自然に親しみ里山で体を動かすことで健康増進につながる。

「自然環境 私たちにできること」今後の展開イメージ

みんなで生きもの調査は、市内の自然環境の現状把握や生物多様性に対する市民の意識高揚に資することを目的に、一般の市民から市内に生息・生育する動植物の情報を募る継続的な「動植物調査」です。

具体的には、調査対象となる動植物を写真入りで紹介した「生きもの調査ガイドブック」を広く公表・配布し、市民に発見日時・場所、写真などの情報の投稿をお願いするものです。

集められた生物情報は、データベースとして蓄積し、学校教材や自然観察講座等の資料としての活用のほか、希少動植物の保全対策や外来種対策などにも役立てていくことが期待できます。

